



だれもが大切にされる学校 令和5年度 第9号 R6.2.1

大庭小学校だより



文責:佐藤

HPはこちらから



臨時休業と子どもの権利

1月24日～26日の荒天・大雪ではご心配をおかけしました。通学の見守り、除雪など私どもの知らないところでたくさんお世話になっていると思います。ありがとうございました。

さて、数人の子どもが「どうして今日は臨時休業ではないのか」と訪ねてきたので、おおむね次のように答えました。（お休みにしてほしいなと思ったのでしょうか。）子どもたち真剣に聞いてくれました。

臨時休校（正式には臨時休業）は、病気の流行を防ぐために行う場合は、お医者さんと学校が相談して、その意見をもとに松江市教育委員会が決めます。災害が心配な場合は、湖東中や竹矢小の校長先生とも相談してみなさんの安全を第一に考えて校長先生が決めます。

12月22日の終業式と、今回はどちらも大雪が心配なのだけれど、どこが違ったかという・・・

一つ目は、12月は初めての積雪だったこと。タイヤをかえていなかったり、雪道の運転に慣れていない車がいたりすることが心配でした。特に大庭は歩道がない通学路が多いでしょう？もしも車が突っ込んできたらと思うと、とても心配でした。

二つ目は、12月は風が強くて吹雪で視界が悪くなくなりそうだったこと。実際12月には前の日に通学中にたくさん傘が壊れました。泣きながら来た1年生もいたのです。今回は風がそこまで強くなさそうでした。雪は確かに多いけれど何とか歩いてくることができると考えました。

学校は、みなさんが大人になって社会に出ていくために大切な勉強をする場所です。だから、できる限り開けておかないといけないと思っています。みなさんも雪の中を歩いてくるのは大変だったと思うけれど、がんばって学校に来て（自分や社会の未来のために）勉強してほしいと思っていますよ。

それから、皆さんは知らないけれど、校長先生や他の先生もいつもよりずっと早くから学校に来て雪かきをしたり、公民館長さんや交通指導員さんも公民館の前の歩道を雪かきしてくださったり、重機で車道を除雪してくれた人がいたり、そんな道を皆さんは歩いてきたのです。ありがたいと思える、感謝の心をもつ人になるといいなあと思いますよ。

臨時休業というのは、様々なところに影響が大きい、重い決定ですので、様々な人の意見を聞いて最終的には校長が責任をもって決断することと考えています。（判断基準はHPにも載せていますが、それだけでは、判断できない場合も多々あります。）

学校に来れば一面の銀世界。雪遊びを堪能する子どもたちです。➡



さてこの件に関して、子どもの権利条約にある意見表明権について考えました。条約には次のような権利がうたわれています。

第12条 子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっています。その意見は、子どもの発達に応じて、じゅうぶん考慮されなければなりません。（ユニセフ日本協会の訳）

今回の児童のように、自分にかかわることについて意見を述べるができる権利や考えを表現する力は大切です。また、子どもの意見を大人が正対して聞く社会も大切です。その際、大人としてどうこたえるかは常に試されているのだと思います。

最近、中学校を中心に校則の見直しを生徒会主体で進める動きが広がっています。これもこうした考えによるものでしょう。大庭小学校でも、子どもの意見を大切にしますので、ご家庭でも地域でも子どもの意見表明権について、心におとめおきください。

条約は同時にこうも言っています。

第3条 子どもに関係のあることが決められ、行われるときには、子どもにもっともよいことは何かを第一に考えなければなりません。

ここで「考えなければならない」とされている主体は大人です。今回は学校を開くことが子どもにとって最善、子どもの教育を受ける権利を保障すると考えたわけです。

なぜそうするのか、どんな価値があるのかを伝えること、（趣意説明）は、価値が多様化する現代でますます大切になります。学校でも家庭でも「子どもたちに対して子どもだから大人の言うことを聞きなさい」では、だめなのだと思います。子どもの考えを認めながら、子どものために何がよりよいと考えたのか、その理由を伝えること、お互いの考えを話し合うことを大切にしていきたいものです。

臨時休業から、子どもたちに考えるきっかけをもらいました。ありがとう。子どもの意見を聞くことで成長するのは大人の方かもしれません。

※ちなみに条約は国と国との約束なので、法律よりも優位であるとされています。

大雪にちなんで、内田樹氏の言葉を引用して終わりにします。

例えば、雪の降った日に、朝早起きして、雪かきをした人がいたとします。その人は一通り雪かきを終えると、家に入ってしまった。あとから起き出して通勤通学する人たちは、なぜか自分の歩いている道だけは雪が凍っていないことにも気づかずに、すたすた歩いてゆきました。でも、この人が早起きして、雪かきしてくれなかったら、その中の誰かが滑って、転んで、骨折したりしたかもしれません。さいわいそういうことは「起こらなかった」。起こらなかったことについては、誰もそれについて感謝したり、それを称えたりはしません。でも、たしかに雪かきした人はこの世の中から、起こったかもしれない事故のリスクをすこしだけ減らしたのです。

この人もまた「アンサンング・ヒーロー」（その功績が歌に歌われて、称えられることのない英雄を指す）です。

雪かきのような仕事は他にもたくさんあり、アンサンング・ヒーローもきっとたくさんいます。大人になるということはそういうことでしょう。そうした身近な大人から子どもたちに学んでほしいと思います。